

第46号 2016年3月15日

663-8143 西宮市枝川町 19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

冬の鳥観察会

2月6日(土)甲子園浜自然環境センターにおいて、日本野鳥の会ひょうご杉田義彦さんを講師に、冬の鳥観察会を行いました。やや曇っていましたが、観察には晴れているより光らなくて良いとのこと。波もなく、センター出てすぐ目の前のカモたちを、かなり近くで落ち着いた状態で観察できました。



この日見られた冬のカモ類は、オナガガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ、オカヨシガモ、マガモ、スズガモ、ホシハジロ。他に、

ユリカモメ、オオバン、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、コサギ、カルガモの17種でした。神戸から野鳥と自然観察会30名ほどの方も参加され、65名にもなりましたが、大変充実した観察会でした。

昨年末から1月にかけて、甲子園浜では珍しいアカエリカイツブリが飛来して、他府県からも「アカエリいますか」とウオッチングにたくさん来られていました。

環境省の鳥獣保護区管理員 アカエリカイツブリ
で日本野鳥の会ひょうご二河さんによると、今年甲子園浜に飛来した冬の鳥は、全体の数はやや少ないが、種類は同じくらい来ていますとのこと。



甲子園浜は小さな海ですが、鳥達との距離が近く、じっくり観察できるところがすばらしいと、杉田さんが言われます。これからも甲子園浜の環境を守っていかねばと思います。

答：オニグルミの冬芽
センター前の浜でみつけてね

国指定浜甲子園鳥獣保護区での干潟再生

甲子園浜は、野鳥の生息地としての環境を保全するため、昭和53年「国指定浜甲子園鳥獣保護区」に指定されました。保護区にある干潟は、戦前は海軍の飛行場だったものが、台風により防波堤が破損、陸地が陥没したあとに砂礫や泥が堆積して形成されたものです。

平成7年の阪神淡路大震災により地盤が沈下、干潮時に露出する干潟の面積が縮小していました。そのためと思われるが、干潟へのシギ・チドリ類の渡来数が減少しています。とくに小型シギ類トウネンの個体数は、地震前(1985年と1989年の平均値)と地震後(1998年と2005年の平均値)とを比較すると、春季で地震前の約1/3にまで減少しました。

鳥類の飛来地としての機能を再生する目的で、平成22年度、鳥獣保護区保全事業が始まりました。これまでに土砂を投入施工された干潟では、底生生物が生息し、渡り鳥が羽を休めているのも確認されています。

2月25日、まず汚濁防止膜が設置されて27年度の工事が始まり、3月4日からクレーン付き台船が配置され土砂が投入されています。今回から武庫川浚渫土砂を活用投入しているとのこと。



来年度以降、さらに東側に拡大造成される予定です。

この事業は、環境省による国指定浜甲子園鳥獣保護区保全事業です。

ホームページ開設しました

<http://www.npo-koshienhama.com/>

Facebook もごらんください

甲子園浜は塩分変化の大きい海

2014年8月10日の台風がもたらした大雨で甲子園浜はほとんど真水になった。水族館跡のコンクリート台に着いていたカンザシゴカイは、炭酸カルシウム製の棲管を残してその中の生体はまったくいなくなった。一般に、潮間帯に棲む動物は塩分濃度の変化に耐性がある。数時間真水に曝されてもその後は正常な海水に癒されるのであれば生きていける。「6時間雨水を我慢してね、そうしたら正常海水になるからね」と言えば我慢できる。しかし何日間も低塩分に曝されれば、それはもう我慢の程度を超える。移動可能な動物は移動するが、そうでないなら死ぬしかない。カンザシゴカイは棲管を残して死んでしまったのだろう。

この大雨の後、湾奥の海はムラサキガイが死滅し、次の春まで現れなかった。塩分は1ヶ月でほぼ元の状況に回復したのだが、動物はそう簡単には戻らない。甲殻類のワレカラについて言えば、甲子園浜では2014年7月までいたのだが、8月10日の大雨の後2015年1月にやっと戻ってきた。そのワレカラが何処から戻って来たのか、まだ分からない。

8月末、湾岸道路を走行中も淀川のうす緑色の水が大坂湾に流れ込み海水と混ざり合わなかった。この状態が1ヶ月間も続いたように思う。私は、甲子園浜での状況は、大阪湾奥のかつての自然海岸での状況を再現していると考えている。戦後、埋立てにより大阪湾奥はほとんど自然海岸を失った。砂浜があり、遠浅の海が湾奥の海岸である。今となっては、かろうじて残された自然海岸の甲子園浜からしか、かつての大阪湾奥を知ることができない。このように考えると約1kmの長さの甲子園浜は決して小さい海岸ではないと思う。

春になってムラサキガイもワレカラも人工構造物に着いていた。2015年7月17日の台風でも大雨に見舞われた。何とか戻ってきた動物も前年と同じように河川水のため、浜からいなくなった。ワレカラも、その後2016年冬になって戻ってきた。このように甲子園浜は厳しい塩分変化に曝されるが、しばらくすると生き物は戻ってくるのだ。

兵庫県生物学会 阪口正樹

浜ん婆のひとりごと

ワレカラ(甲殻類)

甲子園浜でワレカラ類は3種は確認されている。体長は普通1cm~3cm。体は細長く胸部にカマキリ型のハサミ足をもつ。昆虫のナナフシに似ており一度知れば忘れられない独特の姿だ。岩や海藻の根元辺りに集団でいて体全体を上下にダンスのように振っている。飛び移ったり尺取り虫の運動で移動する。雄と雌の形は非常に異なっていて別種とってしまう。雌はどれも体の中央がぷっくりと膨らんでいて出産まぎわの妊婦のお腹みたいだ。

ワレカラは春に大量に出現する。春は海藻の収穫期で海藻に沢山付着しているので大昔から知られている。ワレカラは「割殻」の字が当てられ「われから」と「我から」をかけて古くから歌に詠まれている。伊勢物語に「恋ひわびぬ海人に苅る藻にやどるてふ我から身もくだきつるかな」とネットにあった。網とバケツを持ってワレカラ探しに甲子園浜へ来てください。

東山 直美

ワレカラ

ワレカラ



活動報告

12月16日 南甲小3年生冬の鳥観察会

2月6日 冬の鳥観察会 65名

2月25日 昨年来鳥獣保護区に残っていた大型漂着ゴミを、環境省の依頼でヤマサ環境エンジニアリングが清掃撤去

3月5日 環境省近畿事務所冬の鳥観察会

3月6日 海浜清掃 104名、可燃ゴミ220kg

不燃ゴミ10kg (ヤマサ環境エンジニアリング調べ)

活動予定

4月1日(金)~5月31日(火)

国指定鳥獣保護区立ち入り制限

4月29日(金)~5月8日(日) チラシ配り

5月8日(日) 通常総会、シギドリ観察会

6月4日(土) 大阪湾生き物一斉調査



これなあに?
答は1面のどこかに